

第6章 丸山地区（旧丸山町）

1. 位置

南房総市中央の外房側から山間部を北に延びて北は鴨川市と西は館山市に接する位置にある。



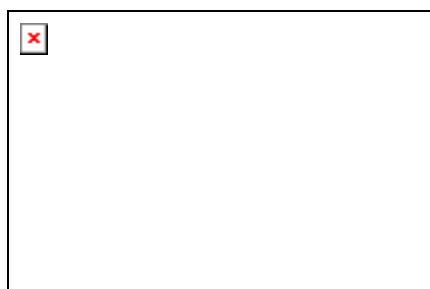
石堂寺からの眺望



2. 地形

丸山地区は、三嶋海岸から^{あたごやま}愛宕山まで延長南北 15.3km 東西 4.2 kmの細長い地形であり、その中央を丸山川が流れている。

太平洋に面した海岸線を三嶋海岸といい、延長約 2 kmの狭い海岸線があり、海は青く防風林が続いて青緑の優美な景観を呈している。海岸線の東方旧和田町との境界に丸山川が太平洋に流れ込んで、潮の流れが速く遊泳禁止区域になっているが、専ら釣人やサーファーの集まるところで 4 季を問わずサーファーが波とたわむれる海岸となっている。



三嶋海岸

山岳地が多く県下随一の高峰愛宕山を始め、その南西方に御殿山、鷹取山、法経塔山という高峰が連なっており、何れも眺望はすばらしい。これらの山へは県道富山丸山線の宮下畑地先より、林道畑塩井戸線を終点までは車でも登れるが、それから先は眼前に嶮峰を眺めつつ山から山へと尾根づたいに登頂することになる。

3. 山 岳

1) 愛宕山



愛宕山の全景

①概要

ア) 所在

北部の嶺岡産地に位置し稜線を境に鴨川市と接し、本県最高峰の山で東西に走る山系である。山容はなだらかな老齡期の地形を示し、地すべり地域である。

イ) 標高

408.2m

ウ) 歴史

山頂には愛宕神社が祀られている。祭神は軻遇突智命かぐつちのみことで高さ 2.5m の立派な石宮が造立されているが現在は、航空自衛隊峯岡山分屯基地内にあり自由に行き来することは出来ないことからハイキング等には不向きな山である。

エ) 自然

山頂一帯の鴨川市にまたがる峰岡山地を中心とした 15.7 平方キロメートルが嶺岡山系県立自然公園となっており、県内でも清澄地域に次ぐ動物相の豊かな地域である。山頂は、航空自衛隊峯岡山分屯基地となっており植生はコナラが主林だが現在は、スギ・ヒノキの人工林が占めている。またモウソウチク・マダケ・ハチク林も分布している。

②ハイキングコース

ア) 建造物

◆愛宕神社

乳牛試験場を国道 410 号線沿いに更に上がると峠で嶺岡中央林道と交差し、この峠が南房総市と鴨川市の境界です。ここで林道を右に上がれば鴨川市太海に通じ、左に上がれば航空自衛隊峯岡分屯基地があり、その基地内に愛宕神社が鎮座している。この神社を参拝するには予め自衛隊の許可が必要である。

・祭神 軻遇突智命かぐつちのみこと

・社殿 石宮

・由緒 その昔神亀元年（724）行基菩薩がこの山の愛沢坊に入り主となった。その後約 1000 年を経て、享保 5 年（1720）の夏、旱天が続き雨乞いのため石宮を造営して祈願した。

また、元文 3 年（1738）には、嶺岡牧御馬方齊藤三右衛門の命により拝殿が建立され、寛保 2 年には五輪塔を建立している。

③付近の見どころ

ア) 歴史

◆千葉県嶺岡乳牛試験場

愛宕山を中心とする嶺岡山系の約 1760 ヘクタールに及ぶ一帯は、慶長年間に安房の国守、里見氏が牧場を興したと伝えられ、徳川幕府の直轄地となってからも牧の整備や軍馬の生産が行われた。その後 8 代将軍徳川吉宗が我が国で始めて印度産の白牛を飼育したことから、日本酪農発祥地としての嶺岡牧は、時代の流れの中で多難な変遷をたどりながらも、我が国酪農の基を築き、県内はもとより、全国の酪農発展と乳牛改良に尽くした役割ははかり知れないものがある。

現在の嶺岡乳牛試験場は、南房総市大井686番地にあつて、旧嶺岡牧の一部にあたるが、昭和38年5月から千葉県嶺岡乳牛試験場と改称され、県の出先機関として乳牛の改良研究と優秀種牝牛からの人口受精用精液の配布等により、本県酪農発展の重責を担っている。

イ) 文化財

◆日本酪農発祥地（千葉県 指定史跡 昭和38年5月4日指定）

嶺岡牧は、戦国時代に里見氏が軍馬育成のために創設したと言われているが、江戸時代に幕府直轄の牧場として整備された。

享保12年（1727）の牧区画以後は、西1牧・西2牧・東上牧・東下牧・柱木牧の5枚からなり総面積17.60km²、周囲6.8kmに及ぶ広大な地域からなっていた。この嶺岡牧で注目されるのは、享保13年（1728）将軍徳川吉宗は、我が国で初めて印度産の白牛3頭（牝1・牝2）をこの嶺岡牧に放ち、寛政4年（1792）には70頭余に繁殖したといわれ、幕府は命じてこの白牛の乳から白牛酪^{はくぎゅうらく}を造らせ薬用として珍重し、町医桃井源寅に『白牛酪考』1巻を撰述させ刊行している。

現在の嶺岡乳牛試験場は牧の中央部にあたり入り口には「日本酪農発祥之地」の碑が建立されている。

◆飛雀の烙印（丸山町 有形文化財 昭和53年2月28日指定）

「日本酪農発祥地」として県指定史跡となっている嶺岡牧は、里見氏が軍馬育成の目的をもって創設したと言われている。この牧で繁殖・育成された馬を捕獲する「馬捕り」の行事がいつごろ始められたかは定かではないが徳川時代になると毎年5月に定例的に行われた様である。

この飛雀の烙印は、馬捕りの際に、捕獲した馬のうち、見覚えのために2歳の牡馬の臀部に焼印したもので、長さ72cmで印型は飛雀の型で大きさは縦6.5cm横4.5cmである。一方雌馬には△の焼印をした。この際、種馬として残すべき牡馬、及び繁殖用の牝馬、当歳馬は再び放牧した。

オ) 特産品

柚子・筍やふき等の山菜

カ) 体験型観光

◆いきいき体験共和国

「千葉県酪農のさと」に隣接した施設で酪農体験をはじめ、農業体験や地域に伝わる食品加工体験など季節に合わせた様ざまな体験ができます。



みなおかいきいき館



酪農体験



体験交流施設

キ) その他

◆千葉県酪農のさと

日本酪農発祥の地に千葉県が酪農資料館として平成7年11月にオープンした2階建ての三角屋根に教会風の明り取りの付いた建物です。

内部は、3つの展示室から出来ており、第1展示室は、「乳文化の源泉を探る」展示内容は、世界の酪農史・牧場から学校まで・乳製品を作る道具。

第2展示室は、「乳牛と牧場」展示内容は、乳牛の生態・乳牛の飼育技術。

第3展示室は、「牛の国・乳のさと・安房・ちば」展示内容は、日本の酪農のあけぼのから、近年の千葉酪農・酪農技術までです。

また、周辺には白牛の見られる牛舎や山羊や牛と触れ合える放牧場や小川で水遊びも楽しむことができます。



酪農資料館



白牛

1) 御殿山



御殿山の全景

①概要

ア) 所在

御殿山は愛宕山の南方に位置する

イ) 標高

363.9m

ウ) 歴史

由来によれば、往古日本武尊が東征して安房を平定したときに、四方が一望できるこの山頂に御殿を設けたといわれている。戦時中参謀本部陸地測量部が埋めた2等水準地点の杭があり、測点として重要な場所であった。

エ) 自然

山頂は約3a位の平地になっており、遠方から眺めるとお椀を伏せたような形のマテバシイの古木が数本寄り副って樹冠を構成している。山頂からは遠く太平洋が眺望でき近くは鷹取山、法経塔山、富山、鋸山等が一望できる。また昭和42年頃から県を主体とする、宮下、川谷、珠師ヶ谷の県営分収林組合が「御殿山椿の里」を造成すべく、椿及び

山茶花の苗木 200 本余りを、山道の両側や山頂近くに植樹したので、成木となり晩秋から早春まで満開となり、正に椿の郷の景観を呈し、ハイカーの眼を楽しませてくれる。

オ) 交通

- | | | |
|-------|-----------|--------|
| ◆市民バス | 山田中バス停 | 山田ルート |
| ◆日東交通 | 丸線 川谷バス停 | 畑ルート |
| ◆日東交通 | 丸線 御子神バス停 | 塩井戸ルート |

②ハイキングコース

ア) 距離及び標準時間

- | | | |
|---------|---------|------|
| ◆山田ルート | 2. 5 km | 50 分 |
| ◆畑ルート | 4. 2 km | 90 分 |
| ◆塩井戸ルート | 3. 7 km | 80 分 |

イ) 建造物

◆不動明王石仏

御殿山頂近くの登山道にあるものでこれは、文化文政の頃の安房の刀工として有名であった波々壁主水が郷里の宮下塩井戸に建立奉納したとされている。台石に次に刻印がある。

寛政八丙辰五月吉日 世話人平九里中村若者中
希得利剣

奉造立大聖不動明王

諸願成就

総州正義弟子□不明

當国丸宮下村塩井戸住藤原正智

③付近の見どころ

ア) 自然

◆安房中央ダム

国道 410 号線沿いにある農業用ダムで丸山川をせき止めて築造した安房中央ダムは旧丸山町・旧三芳村・館山市及び旧和田町を包含する 2,397 戸を受益者とし、約 1,088ha の農地を対象として、211 万 3000 ㍓の貯水量を有する安房における代表的な農業用ダムです。新緑と紅葉の綺麗な処です。

◆小野次郎右衛門生誕の地公園

国道 410 号線沿いの御子神集落にある公園（別名：典膳公園）です。この公園は、徳川時代に剣の指南役として名を馳せた小野次郎右衛門の生誕の地として造られました。国道からは木製の大きな階段を登ります。園内には小野派一刀流の刀をモチーフとしたモニュメントが造られています。田園と緑の綺麗な公園で桜の花が咲く頃が素敵です。

イ) 歴史

◆御子神典膳

小野派一刀流は、小野次郎右衛門忠明により開かれ、柳生流と共に徳川将軍家に採用され隆盛を誇った。

この流祖忠明は安房国朝夷郡御子神村の生まれで御子神典膳と言い、たまたま来遊した一刀流開祖伊藤一刀斎景久に入門、ついに一刀流の正統を伝え外祖父の姓をつぎ小野次郎右衛門忠明と名乗り徳川家康に仕えた。元和 3 年（1617）下総国埴生郡寺台村の地頭となり、寛永 5 戊辰年（1628）12 月 7 日歿した。



小野次郎右衛門生誕の地公園

2) 鷹取山



鷹取山の全景

①概要

ア) 所在

鷹取山は御殿山の南方に位置する。

イ) 標高

364.5m

ウ) 歴史

鷹取山は御殿山と並んだ高峰で、口碑によれば往昔源頼朝が鷹狩りをしたところから名付けられたということである。山頂には浅間大神を祀った標石がある。

エ) 自然

頂上は木が生い茂り眺望はあまり望めない。植生は御殿山と同様である。

オ) 交通

- ◆日東交通 丸線 川谷バス停 畑ルート
- ◆日東交通 大日山ルート

②ハイキングコース

ア) 距離及び標準時間

- ◆畑ルート 6.5km 120分
- ◆大日山ルート 7.5km 150分

3) 法経塔山



法経塔山の全景

①概要

ア) 所在 御殿山の南方に位置し、旧三芳村増間と旧丸山町宮下の界にある。

イ) 標高

341.5m

ウ) 歴史 三芳地区に記載

②ハイキングコース

ア) 建造物

山頂には全高 **1.8m** の塔碑があり、下段は縦 **0.8m**、横 **0.9m** の四角形の石積みで、中が空洞になっていてその上に中段の台石があり、更にその上に塔碑が建っている。正面に「一切求心秘密全身舍利宝経印陀羅尼」と刻まれ、他の三面には経文が字で刻印されている摩滅して判断が困難である。この塔の由来について「三芳村史」では入定墳跡と考えられるとある。

③付近の見どころ

ア) 自然

◆注目すべき動物は、カワセミ・ヤマセミ・トウキョウサンショウウオ・ヒメハルゼミなどである。

◆石堂寺の森林

丸山川の中流の東岸、標高70～80mの台地にある。石堂寺の森はスタジイ＝ホソバカナワラビ群集に属する典型的なスタジイ林である。

る。

バクチノキ山門から参道沿いのスタジイ林内に赤褐色の樹皮をしているバクチノキが大小合わせて 8 本ほどある。最大のものは胸高直径 42 cm 樹高 12 m である。

バクチノキは、バラ科さくら属の常緑樹で南房総が分布の北限に当たる。鴨川市大山不動尊のバクチノキの林が千葉県指定天然記念物であるがそれに次ぐ群生地である。地元ではナンジャモンジャノキで知られている。

イ) 歴史

◆栗野台遺跡

経塚山から引き返して国道に出て北に進むと右側大地の畑では栗野台遺跡がある。

◆永野台古墳

栗野台遺跡の反対側の大地には永野台古墳がある。

ウ) 文化財

◆石堂寺

石堂の商店街に入ると丸小学校の北側に日本三石塔寺の一つとして国の重要文化財に指定され数多くの文化財を有する石堂寺がある。

- ・宗派 天台宗 (滋賀県比叡山延暦寺末 本寺)
- ・称号 長安山東光院石堂寺
- ・本尊 十一面観世音菩薩
- ・境内建物
 - 本堂 80坪 寄棟銅板葺 国指定重要文化財
 - 多宝塔 12.2坪 二層銅板葺 県指定有形文化財
 - 薬師堂 10.5坪 寄棟茅葺 国指定重要文化財
 - 山王堂 6坪 三間社流造柿葺 県指定有形文化財
 - 太子堂 8坪 入母屋銅板葺
 - 仁王門 7坪 切妻銅板葺
 - 鐘楼 8.3坪 入母屋銅板葺 町指定有形文化財
 - 宝蔵 6坪 切妻瓦葺
 - 客殿 52坪 寄棟瓦葺
 - 庫裡 52坪 寄棟瓦葺
- ・檀家数 150戸

・由緒

寺伝の縁起によれば、奈良時代新亀3年（726年）行基菩薩が仏法弘通のため東国に下りこの地にこられたとき、谷間の草庵の中から法華経を読誦する声が聞こえてきた。訪ねてみると3人の僧侶が仏舎利（お釈迦さまのお骨）を捧持し経を唱えていた。行基はそのいわれを聞き、この地こそを海内無双の霊場であると確信され、自ら一刀三礼して十一面観音菩薩の御尊像を彫り本尊とし、大塚山に石塔寺を建立して天下泰平・万民快樂を祈願されたという。

この仏舎利は宝塔に納められ今でも当山の宝物として安置されているが、その昔、インドにおいてマウルヤ王朝アシャカ王が釈迦入滅後、そのお骨を八万4千の塔に納められ、全世界に配分されたものの一つであると伝えられている。わが国にはこの宝塔が三基あって、当山と滋賀県蒲生郡蒲生町、阿育王山石塔寺と、群馬県甘楽郡妙義町、白雲山石塔寺（現在は廃寺）に蔵されていた。同寺所蔵の「白雲山妙義大権現由来」にもこのことが記されている。当山で守護している仏舎利は水晶で造られていて、高さ7.8cm余りの五輪塔に納められ貴重な宝物として永く秘蔵されている。よって開創の頃は寺名を石塔寺と称していた。



石堂寺本堂



千手観音（慶派作）



薬師堂



多宝塔

◆旧尾形家

石堂寺本堂の裏境内には享保13年(1728)の建造による国重要文化財(昭和44・6・20指定)の旧尾形家住宅が移築されている。

尾形家は、旧丸山町珠師ヶ谷で江戸時代に中条流の医師をしていた尾形宮内を初代とし、その後この地で名主をつとめたこともある家柄の旧家である。

この建物は分棟型と呼ばれる形式で、居間・座敷・寝室等からなる主屋と、かまや・作業場として使用される土間とが、それぞれ棟を別に建てられている。これは主として防火を考慮して考え出されたものといわれている。

間口六間半、奥行四間半の主屋は六室からなるが、「なんど」が大きくなるため、「居間」がL字型になっているのは本県では数少ない例であり、大型農家の一典型として価値が高い。

旧尾形家



◆安楽寺

古川から国道 410 号線を北へ進むと、間もなく南房総市丸山支所、中央公民館、安房農協丸山支店等が軒を並べており、更に北に進むと約 2 キロ先に農業者トレーニングセンター、安房消防署丸山分遣所があり、その先を左へ曲がると間もなく正面に、中世の豪族丸氏の菩薩寺安楽寺があり、その裏山は丸城跡である。

- ・宗派 天台宗（石堂寺末）
- ・称号 吉祥山極楽院安楽寺
- ・本尊 虚空蔵菩薩・阿弥陀如来
- ・境内建物
 - 本堂 9 坪 方形茅葺
 - 客殿 4 6 坪 寄棟瓦葺
 - 中雀門 4 坪 四脚門茅葺
 - 鐘楼 4 坪 入母屋瓦葺
 - 庫裡 4 5 坪 2 階建切妻瓦葺
- ・檀家数 1 2 0 戸
- ・由緒

石堂、御子神三郎家所蔵の安楽寺住僧、川名賢海法師の編述した縁起書によれば、当山はその昔西原字笠名の地にあつて光仁天皇の御代宝亀年間（770～780）鴨川市天津小湊町清澄寺の開基である不思議法師の創建であると伝えられていて、御本尊の虚空蔵菩薩は法師が清澄寺において柏樹に彫られたものであるといわれている。按ずるに法師が清澄山を下られて、この地に来られ、奥深く閑静な笠名の地を選んで一寺を建立し、自作の御本尊を安置して民衆を教化指導されていたが、やがてやがていずことなく立ち去られたのであろう。

その後、慈覚大師がこの地を巡錫（僧侶の布教）し堂塔伽藍を修復され、御本尊の靈験があらたかで香華が絶えることがなかった。しかし後世の幾歳月かは草が生茂り伽藍は破壊され荒れ果てた。その後この地方は豪族丸氏が吉祥天女のお告げにより笠名から丸城下の現在地に移し僖雄法印を招いて開山とし丸一族の菩提寺とした。さらに御本尊虚空蔵菩薩の御尊像は旧地に小堂を建てて安置し、当山は新たに御本尊を刻して石堂寺第十二世法印兼浄が導師となり元永元年（1118）に大供養が厳修された。治承4年（1180）9月11日、源頼朝が石橋山の戦いに敗れこの地に来た時、丸五郎信俊を案内者として丸御厨を巡視し丸氏

の館に宿された。その翌日安楽寺に参詣し国土安穩・武運長久を祈願し境内に阿弥陀堂建立を発願していた丸氏に免田若干を給した。

嘉吉元年（1441）8月27日大檀那丸一族が安西氏に敗れ堂塔は兵馬によって破壊された。享徳元年（1452）春、丸氏は阿弥陀堂と山門を再建しここに隠居暮らしをしていた。その後一族の衰退とともに当山も朽ち荒れていった。背後の山腹には岩窟があり、中に墓石が残されていて、丸氏の墓だと伝えられている。

エ) 遊歩道

◆小鳥の森遊歩道 1周 2km 所要時間40分

オ) その他

◆石堂寺の民話 丸山町史より

・仁王さまの蛭退治

むかし、むかし石堂寺の仁王さまは田が青むころになると、必ず夜の田の草取りを仕事にしていました。

いつも村人がいそいで家に帰ってから田へ出て空のしらまぬうちにお二方そろって仁王門さして帰りました。

ある日の帰り道のことでした。どうしたわけか女の仁王さまは足の痛みに我慢できず、男の仁王さまにそのことをお話しになりました。男の仁王さまは夜もほどなく明けるので、人目にかかってはと思いつつその足をごらんになりました。すると股のあたりまでまっかな血にまみれていました。よく見るとたくさんの蛭が鈴なりについていました。男の仁王さまはすっかりおどろき、ものもいわずにその蛭どもをかきむしり、踏みつぶしてひどい痛みを苦しめていた女の仁王さまをばげましていそいで仁王門へお帰りになりました。

こうして次の夜からは、「さぞ村人たちも、あんなにむらがる蛭にはきっと困っているんだっぺ。」とお話し合いになり、お二方の仁王さまはさらに蛭退治をするために決め、一匹残らず退治しました。

とうとうその夜をかぎりとして、石堂寺のあたりはいうまでもなく、思いやり深い仁王さまの見えるかぎりの田には一匹の蛭もいなくなり村人たちは蛭になやむことなく、稲はみずみずしく実るようになったということです。

・雀の親孝行

むかし石堂寺の仁王さまが門前にたたずんで、野をはるばると見渡しておられたときのことです。そこへ一羽の雁が飛んでまいりました。「仁王さま大変です。小鳥どもの親が大病になりました。」と知らせました。「それは大変なことになったぞ」と仁王さまはすぐに小鳥どもの巣へ知らせを出し、ガラングランと鳴子を強く引き鳴らしました。

ただごとでない夢からさめた藪の中の小雀どもは、取るものも取らず一族を引きつれて、大病にかかった親のもとへ駆けつけました。ようやくのことで小雀どもは親の死に目に会えました。ところが、燕は身なりを気にしお化粧に時間をかけていたためにとうとう親の最後に間に合いませんでした。そこで仁王さまは、小雀どもの親孝なのに大変感心されて、それからは人間と同じ穀物を食べることをお許しになりました。遅れてしまった燕にはそれを固く禁じられ稲が実るころになると遠い国へ流されてしまうようになったといひます。

また、多情ものの蝙蝠こうもりはその夜はうかうかどこかへ遊びにでていたため、ついに親の死んだことも知らず仁王さまに叱りとばされたばかりでなく、とうとう鳥の一族からのけものにされてしまいました。こうして蝙蝠は、獣からも親不孝ものは駄目だと仲間になれず初めていままでの行いが悪かったことを知り、明るい昼間は暗い洞穴に隠れて、じっと昔の小鳥仲間の遊び声をきき、夜になるとこっそり洞穴から出て食物をさがすようになったのだということです。

4) 経塚山



経塚山の全景

①概要

ア) 所在

珠師ヶ谷に入り切割を抜けると左側山麓に善性寺の堂字が見え、更に進んで大沢林道に入り終点は経塚山麓に着く、

イ) 標高

310.7m

ウ) 歴史

この経塚山は嶺岡牧の中の柱木牧で、裾野に馬捕場跡が残っている。この柱木牧の馬捕場は、珠師ヶ谷の温石川上流、大沢林道終点から更に経塚山を少し登ったところにあり、山地の地形を利用して、巾4.3m長さ十数メートル、高さ約2mの土手が築かれその石垣積が今でも残っており、馬捕場の一部として名残をとどめている。

エ) 交通

日東交通 丸線 珠師ヶ谷バス停

②ハイキングコース

ア) 距離及び標準時間

◆珠師ヶ谷ルート	5.5km	100分
◆石堂原ルート	4.3km	80分
◆川谷ルート	1.5km	40分

イ) 建造物

◆珠師ヶ谷八雲神社神輿彫刻

珠師ヶ谷八雲神社の神輿は、明治 26 年に造られたもので二重高欄をめぐらし、彫刻を数多く装着した重量感のある神輿である。

③付近の見どころ

ア) 自然

◆経塚山に生息する注目すべき動物はカジカガエルである。

イ) 歴史

◆千朶の楓の跡

経塚山の裾には、農業用水の安房中央ダムがあり東側が犬切の集落の小高い所に「千朶の楓」の跡がある。

この楓の木は、幹の太さ 4 抱半、高さ 1 丈余、枝条四垂し二十条に及ぶもので千穂楓、伊呂波楓の名もあり詩にも多く詠まれている。湖水を左下に眺め上り坂を曲がりながら進むと頂上に着き峠の左側に小さな石碑が建っており、「念仏まつ」という。現在は少なくなったが昔は河鹿の澄みきった美声を聞くことができました。

◆伝説と民話

・犬切考と房州犬切縁起

犬切の地名に関わる伝説のうち、川谷区有文庫では川谷犬切出身の鈴木留吉氏（館山市那古）の「犬切考」と犬切在住であった青木貞次郎翁の「房州犬切縁起」の二つがある。共に「里見八犬伝」の影響があるが、特に青木翁の「犬切縁起」にその傾向を強く感ずる。七五調で調子のよい語り口である。

4. 見どころ

1) 自然

2) 歴史

①莫越山神社（沓見）

ア) 祭 神

たおきほいのみこと ひこさしりのみこと ごややす
手置帆負命・彦狭知命（小屋安大明神）

イ) 相 殿

ひこほほでのみみこと かみうめ
日子穂穂手見命（神梅大明神）
とよたまひめのみこと こやす
豊玉姫命（子安大明神）
うがやふきあえずのみこと といこ
鷗葦草葦不合命（問子大明神）

ウ) 社 殿

本 殿 間口三間・奥行二間 銅板葺
拝 殿 間口六間・奥行三間 銅板葺
若宮社 間口一間・奥行一間半 銅板葺
神饌所 間口二間・奥行三間 銅板葺
社務所 間口六間・奥行三間 瓦葺

エ) 由 緒

社伝記によれば、神武天皇元年天^{あめ}富^{とみのみこと}命^{いんべ}が阿波の忌部の諸氏を率いてこの地に移り来たりて麻や穀物をまき植えた。またこの地に太玉^{ふとだま}命^{のみこと}の社を建立し祀ったこの社を安房神社という。

このとき手置帆負の孫小民^{おたみのみこと}命^{おみちみこと}とその子御道^{おみちみこと}命^{おみちみこと}も天皇命のしたがってこの地に移住しもっぱら東方の開拓にあたり、祖神手置にしたがってこの地に移住し東方の開拓にあたり、祖神手置帆負命を莫越山に鎮座し併せて彦狭知命を合祀した。当社は安房国6座の内、朝夷郡4座とあるその1社である。手置帆負命および彦狭知命は大殿建設・土木諸匠の始祖であって人々が家屋の安住できるのはこの両神の神徳によるもので、別称を小屋安大明神と称し、遠近の木工諸匠から尊崇され参拝者が絶えない。

オ) 神酒醸造神事

今から1,300年前頃から行われていたと伝えられる伝統ある行事で氏子中が栽培した米を原料として醸造し神に供える神事で、祭典終了

後の下げた神酒を参列者一同に振舞い、神人合一、氏子和合を図った。
 明治19年の酒税法の改正により神社での醸造が禁止されたことから全国的にも珍しい神事となり、現在は、9月14日・15日の館山市八幡神社の祭礼の際の神輿渡御祭のみに限られている。

②加茂遺跡（指定史跡 昭42・3・7指定）

丸山川の下流から分かれて西に開けた加茂字神門の一角にある。

現在、周辺は宅地や水田になっているが、本遺跡が形成された縄文時代前期のころは、低地でしかも湖沼となっていたらしく、アシ等の枯草が堆積し、泥炭化した層の中から、当時の遺物が多く出土している。丸木船2・櫂4・丸木弓1・多数の土器や石器・オニグルミやクリの実・シャチ・イルカ・ニホンジカ・イノシシの骨等、多数の動物の遺物も発見されている。

③賀茂神社

ア) 祭 神 わけいかづちのみこと
 別 雷 命

イ) 社 殿 本 殿 間口二間半・奥行三間 銅板葺
 本殿内宮 県指定有形文化財 昭42・3・7指定
 拝 殿 間口五間・奥行三間 銅板葺
 神輿庫 間口二間・奥行三間 瓦葺
 神 庫 間口二間・奥行一間半 瓦葺
 社務所 間口四間・奥行三間 鉄板葺

ウ) 由 緒

現在の社地にあたる場所に夜ともなると、こんもり茂った杉山の立ち木の間から満月のような光を発するものがあった。村人達は恐れをなし足を踏み入れるものもいなかったが、ある夜、すがなみ 渚南なる村長が杉山に入ってみるとその光が突然消え、一人の老翁が現れた、この老翁がいわれるには、私は賀茂の神である。ここに神座を定め天地長久、五穀豊饒を守護するであろうと告げられた。村長は夢かと驚いたが、翌朝心身を清め再びその場所に行ってみると、三寸ぐらいの赤木の神像が立っておられた。早々村人達と図り、和銅5年（712）8月2

日神殿を造営しこの神をお祀りした。さらにそれまで渚南と称していた村名を神の名にちなみ賀茂村と改められた。また、翌和銅 6 年の 6 月から 7 月にかけて大旱魃となり困り果てた村人達はあげて祭神別雷神に雨乞いを祈願したところ靈驗著しく、豪雨千田を潤し枯死寸前の稲が青々とよみがえった。この靈驗に村中の老若男女は、神の恵みと喜び野外に出て乱舞して感謝したという。当社の八朔の祭礼に奉納される「三番叟」「花踊」はその伝承ではなかろうかといわれている。

④加茂の^{さんぼそう}三番叟（無形民俗 文化財 昭 37・5・1 指定）

毎年 8 月 1 日、2 日「加茂の八朔」といわれる賀茂神社祭礼の式典後、境内に設けられた組立式の舞台上で、加茂の花踊りの前に最初に演じられ、倭舞とも呼ばれていた。

演ずるのは、地元の 10 歳前後の 少年で、祭礼が近づくと大人から伝授され練習を積む。この芸能を構成する翁・千歳・三番叟各 1 人をはじめ、囃し方の太鼓 1 人、小鼓 3 人はすべて少年が演じ、大人は笛と地謡など 3 人だけである。



^{さんぼそう}加茂の三番叟

④加茂の花踊（無形民俗文化財 昭 38・5・4 指定）

「加茂の八朔」の祭礼で三番叟に続いて演じられる。

地元の10歳前後の少女8人が踊るので、昔は「八乙女舞」とも呼ばれた。白衣と緋色の袴を着けた少女が、紅白の造花を付けた竹と扇を持って踊るので花踊りといわれているが実際には、この花踊りのほか、つるしのぶの入った手籠を持って踊る手籠踊、手拭を持って踊る手拭踊、何も持たない手踊、鳥毛の槍を形どって持つ奴踊があり、現在ではこれらを総称して花踊といっている。



加茂の花踊

⑤賀茂神社^{おおび}大火祭（無形民俗文化財 昭50・11・1指定）

毎年大晦日の夜、賀茂神社の境内でこの大火祭が行われる。地元の氏子の手によって生木を4メートル余りの高さに積上げ、午後7時にこれを点火し、歳神様のお降りを仰ぎ、神域はむろん集落を清め、悪霊を払い、燃えつき倒れる心木の方向を吉方とする。氏子は古い御守札などを一緒に焼いてもらう。各家はこの残り火をその歳の種火として持ち帰り、灰は家の周囲にまいて病魔を追い払うまじないとする。

神社では参拝者に大豆の強飯を与え、無病息災を祈る伝承行事である。



^{おおび}賀茂神社大火祭

⑥日蓮寺



日蓮寺とあじさい

国道128号を館山方面から旧丸山町に入って間も無くすると左手にあじさい寺で名を高めた日蓮寺がある。

ア) 宗 派 日蓮宗 (天津小湊誕生寺末)

イ) 称 号 勝栄山日蓮寺

ウ) 本 尊 日蓮聖人

エ) 境内建物

本 堂	74.5坪	入母屋銅板葺
七面堂	5坪	方形瓦葺
観音堂	1坪	切妻瓦葺
上行堂	1坪	切妻瓦葺
仁王門	6坪	切妻銅板葺
庫 裡	63.5坪	半入母屋瓦葺
厨 房	22.5坪	切妻瓦葺

オ) 檀家数 300戸

カ) 由 緒

往昔は、勝英坊と称する真言宗に属する十王仏を安置した小堂であった。宗祖日蓮上人が文永元年(1264)9月頃、父の墓参及び母の病氣見舞のため帰房される途中この堂に立寄られ止宿された。当時の坊主であった行然法印は、上人の人徳と高説に敬服し法弟となり日

蓮門下に改宗したと伝えられている。

このとき周囲の農民から井戸水が悪くて飲料水に富住していると聞き、上人は自ら錫杖を持って聖地を定められたので掘ってみると清水がこんこんと湧き出たという。大正12年の大震災でやや水脈が変わったがいかなる旱魃でも水が涸れることはなかった。

また、昭和45年戒心院日達代に弟子須金教徳が近隣の檀徒の助成を得て「あじさい」2万株を境内に植樹した。

キ) 日蓮寺仁王門（有形文化財 昭和53・2・28指定）

この仁王門は、享保11年（1726）に建築されたもので、円柱の八脚門で柱は朱塗りである。屋根は当初は茅葺であったが、昭和55年に銅板に改修された。

建物は全体に装飾は少なく、木鼻が素朴で建築年代の特徴をあらわしている。



日蓮寺仁王門

ク) 日蓮時の^{かや}榎（天然記念物 昭和50・11・1指定）

仁王門を潜ると、参道をさえぎる様に横たわる榎の老樹がある。

この榎は、樹齢約600年と推定され、樹高17メートル、根本幹囲2.5メートルで樹勢はやや衰えているが、日蓮時の由緒を伝える老樹である。

⑦真野寺



国道128号線を館山市から鴨川方面へ向かうと切割りを過ぎると左手に堀切堰があり坂下から右に暫く行くと朝日開運真野寺に着く。

ここは、春には桜、夏には紫陽花、秋の紅葉と四季を通して趣のあるお寺です。

ア) 宗 派 真言宗智山派 (三芳村宝珠院末)

イ) 称 号 高倉山真野寺

ウ) 本 尊 千住観世音菩薩

エ) 境内建物	本 堂	3 6 坪	入母屋瓦葺
	鐘 楼	2. 5 坪	切妻茅葺銅板覆
	えびす堂	1 2 坪	切妻鉄板葺
	客 殿	5 2 坪	入母屋銅板葺
	庫 裡	5 2 坪	切妻銅板葺

オ) 檀家数 2 4 戸

カ) 由 緒

寺伝の縁起によれば、高倉山真野寺は、今を去る1千百余年前、神亀2年(725)現在地の当方1km程の高倉山山頂に、高僧行基菩薩によって開山された寺である。建永元年(1206)10月野火にあ

って焼失したが、翌年北条義時が、大黒天の信仰厚く私財を投じて、この地に七堂伽藍を造立し、高倉山の山号をそのまま移して高倉山真野寺と称するようになった。

御本尊の千手観世音菩薩は行基菩薩の作とされ、素顔を覆面されていることから覆面菩薩と称せられ、素顔を拝めるのは丑年と午年に行われる観音開帳の時である。

大黒様は、貞観2年（860）慈覚大師が真野寺を訪れ参籠中の旧正月六日朝日昇天の中に大黒天が出現され、大師はこの御本尊を直ちに一刀三礼により彫られ、朝日海運大黒天と称せられている。

以来御出現を記念され毎年2月6日に大黒天福祭りが行われている。2月6日の大祭には「宝槌」と「柳守」を授けているが、宝槌の貸与を受ければ、不思議に人生一切の不運不幸が夢のごとく消散して希望溢れる開運福德に恵まれるという。また、柳守は、早く芽がふくすなわち人よりも幸福が早く来ることを意味し、しかも雨にも風にも耐えて折れることのない柳のように、人生の苦難に耐え挫折しない教を示している。

また、白紙に包み水引で封じてある稲穂はもち米の粳であって、はね煎のごとく八倍にも財宝が増え、さらに八十八歳までも長命を保つという縁起がこめられているもので他に礼がない。



真野寺の朝日海運大黒天



波の伊八による龍の欄間

3) 体験型観光

②ローズマリー公園

のどかな田園風景の中で、かろやかに回る風車、薄紫色の可憐な花を咲かせるローズマリーが一面にひろがる・・・そんな夢を実現した公園です。シェイクスピア・カントリーパーク、ローズマリーガーデン、リバーサイドプラザの3つの公園を中心に交流・体験センターや農産物直売所などが点在しています。

田舎の楽しさや、豊かさを体験できる施設で食の体験やハーブを使ったクラフト教室などを開設します。



ローズマリー公園の全景



シェイクスピア・カントリーパーク



道の駅 ローズマリー公園



体験交流様子



イベント：花空間

4) その他

②里山ハイキング

かつては桜の名所だった峰山（標高 **66.6m**）は住民の方達が行政の計画（風車とローズマリーの里）づくり、昭和 **60** 年スタートに併せ続いて「里山づくり」の会を結成して整備、植栽を進めて、現在では安馬谷里山研究会と称する会に発展し毎年会員のガイドでハイキング等を企画、マップ等にて **PR** も行い、一般から参加者を募集して実行している。

ア) 「例」 2007 安馬谷里山研究会ハイキング日程

- ◆3月24日（土）第14回里山ハイキング「山桜見学ウォーク」
- ◆6月10日（日）第15回里山ハイキング「若芽と花菖蒲見学ウォーク」
- ◆11月24日（土）第16回里山ハイキング「紅葉と落ち葉拾いウォーク」



若芽と花菖蒲見学ウォーク